

学校・地域のネットワークで「食」と「農」を学ぶ

事業実施主体:大島郡天城町(鹿児島県)

- 天城町は、鹿児島市から南南西へ468キロメートルに位置する徳之島の北西部にあり、亜熱帯気候を生かした、サトウキビ、生産牛、ばれいしょなどの農業が盛んな地域である。
- 町では、第2次食育推進計画(平成28年度～令和3年度)において、基本理念として「食を通じて生涯にわたって健康で自立した生活を送る」を掲げ、指標の一つとして「教育ファームの取組学校数の増加」を位置づけ、各学校での農業体験を推進している。
- 町内全ての小中学校において、特産作物であるサトウキビやばれいしょなどの農業生産から加工・調理など一連の体験を通じ、「食」や「農」への理解を深めた。



【取組の内容】

- 町内全ての小中学校の児童、生徒、636人が特別活動や家庭科等の時間を活用し、学校農園や地域のほ場で、農業生産活動に取り組んだ。
- 町の基幹作物であるサトウキビやばれいしょの生産、加工など地域と連携し、特色ある体験メニューを取り入れている。
- 特にサトウキビの生産では、収穫後、地域の黒糖工場で、サトウキビを絞り、釜で煮詰め、黒糖に仕上げる製造工程を体験。
子どもたちは、できたての黒糖を味わいながらサトウキビの歴史を学ぶなど、郷土への理解を深めた。
- 天城町の赤土で生産するばれいしょは、皮が薄く、柔らかいという特徴を生かし、丸ごと使った調理実習を体験。また、学校給食のメニューとしても提供されるなど、「つくる」から「食べる」までの取組を体系的に実施している。



地域の農家の指導によるサトウキビ収穫作業(左・中央)とばれいしょ収穫作業(右)

【取組の成果】

- 台風などの自然災害や病虫害発生による収量減、サトウキビなどの重量作物の収穫作業などを通じて、一人一人の子どもたちが農業の苦労や喜びを肌で感じられる貴重な経験となった。
- 高校卒業後、ほとんどの子どもたちが島を離れる中で、これらの農作業や調理体験等を通じ、郷土の歴史や農業への理解を深め、「健康で自立した生活」に向けた実践の場となった。
- 植付から収穫、加工体験などの取組を通じ、保護者をはじめ、農業者やJA青年部組織、製糖工場など地域が全面的に協力するなど、家庭・学校・地域が密接に連携した取組として定着した。



収穫したサトウキビ
で黒糖作り

ばれいしょ収穫作業

収穫した野菜を
使った調理実習